

府大のMICHIなる“ワクワク”

蔵書0冊から始まる
本をきっかけに「人」と「人」をつなげる場

まちライブラリー@大阪府立大学

スタッフの奥井さんに聞きました
(2010年卒業府大OG)

取材:中植 貴之

取材:松田 景太

まちライブラリー@大阪府立大学とは?

ライブラリーなのにスタートした時は蔵書が0冊という、前例がなかったことだったので、面白い人が集まるように仕掛け、みんなで作るような雰囲気を作ってきました。今では登録者数が老若男女あわせて約800人、イベントも年間100件を超えています。これから平日仕事終わりに立ち寄ると“何か面白いことが起きている”になってほしいです。また、先生を呼んでカフェを行うなど、大学というアカデミックな面を生かしたことをやっていきます。

“ワクワク”した瞬間はどんな時ですか?

一つ目に、人! いろんな人がいることです。理解の範疇を超える人に会える、話せる、そして参加者が、次にはイベント実施者になるなど、つながっていく。人と人との出会い、何かが生まれているということを体験することができます。二つ目に自分の寄せた本にメッセージが書き込まれたのを見つけたときは、うれしいです。

府大生への一言

大学の中ってまだまだ狭い世界、いろんな人と出会って話すことで、深みがでてくる。ここに来て、世界を広げて欲しいです。また、ここI-siteなんば内に続き、6月に中百舌鳥キャンパスにも誕生しました。アカデミックを生かしながら、社会人、教職員、学生をバックグラウンドに関係なく、つなげていく場になっていくでしょう。ぜひ「まちライブラリー」に会いに来てください。



URL: <http://opu.is-library.jp>

- 大阪府立大学「I-site なんば」内
開館時間 / 月～土 9:00～21:00
日・祝 9:00～17:00
- 「中百舌鳥キャンパス 図書館前ロビー」内
開館時間 / 府大図書館と同じ
スタッフの滞在は、月水金の昼休み
※月2回イベント開催予定

*まちライブラリーの呼称は、この活動の提唱者確井純充から付託を受けて一般社団法人まちライブラリーが管理しています。

まちライブラリーとは

まちのカフェやお寺、病院などあらゆる所に本を置く場所を作り、みんなで本を持ち寄って、共有するところです。



テーマのある
イベントを開催



参加者が関連本に
紹介をつけて寄贈

これは誰にでもでき、短い時間でその人となり、わかります。その本に提供した人がメッセージを残して、次に読んだ人が感想を書いて残すことができます。



①

②

③

- ①取材当日も、さまざまなテーマの人をつなげるイベントをやっていました
- ②イベント参加者同士のつながりが生まれます
- ③本棚には、空間デザイナーと協力してテーマに関連する「モノ」も置かれます

撮影: 田中大樹
まちライブラリー
@なかもずキャンパス
学生リーダー

視覚情報を 行動につなげる

動体視力測定装置



吉井 泉 准教授
高等教育推進機構

今どんな研究をされていますか?

専門は「視覚情報処理」、簡単にいうと「視ること」を研究しています。「視る」というと視力を想像するかもしれませんが。私の研究では、眼の様々な機能と行動がどのように関連しているかを調べています。人間の行動では、視覚情報が大きく寄与していますが、人間はその情報を無意識に取り入れています。その情報の獲得を意識化して理解することで、行動に繋げることが主な研究テーマです。

例えば、どういったことに役立てられていますか?

高齢者を対象にした研究ですが、眼球運動トレーニングを行うことで、読書スピードやバランス能力が向上することが明らかになりました。これらのことは、歩行中の転倒事故の防止に効果があると考えています。

むむつ!

取材: 奥嶋 駿介



視線分析装置



通過認識センサー (自作)

一般教養の講義も担当されていますね。

はい、「行動と視機能」という講義を担当しています。眼の機能について講義するほか、日頃体験できない視機能測定やトレーニングの実習も行っているの、興味があればぜひ受講してください。

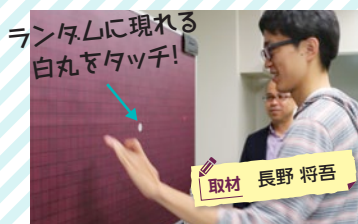
先生は学生とも交流が多く、すごく繋がりを大切にされていますよね。

まず出来るだけ学生の顔と名前を覚えるよう努力しています。受講生や部活動の学生と食事に行くことも多く、研究や測定のサポートや機器の製作をしてもらうこともあり、私自身、学生に助けられています。またその際に学生の本音が聞けるので、貴重な時間だと思っています。人と人との関わりの中で大切なことは、相手と真剣に向き合うことだと思っています。

学生へ一言メッセージをお願いします!

私自身、大学生時代は一番楽しかったし、また人生の中でも最も重要な時期だと思います。失敗を恐れることなく興味のあることに貪欲にチャレンジして欲しいと思います。

ありがとうございました!



取材: 長野 将吾

眼と手の協応動作測定装置

OBのお話を聞こう!



阪神電気鉄道株式会社 社長
藤原崇起 さん
ふじわら たかおき

府大経済学部を卒業後、1975年に阪神電気鉄道入社。鉄道事業本部運輸部長、常務などを経て、2011年に代表取締役社長に就任。

2月12日、「校友会(大阪府立大学全学同窓会)」と「陵友会(経済学部同窓会)」との共催で阪神電気鉄道株式会社の藤原社長による講演会が行われました。

学生も参加できます!

ミチイク取材班の野村、市川が参加しました!



取材: 野村 友紀子・市川 由梨

同窓会取材レポート

「阪神沿線の活性化」に向けて

—阪神電車の紹介—

2009年3月に阪神なんば線を開通させ、交通ネットワークの充実に寄与することができた。特に阪神間～東大阪・奈良エリアでの通学圏が拡大したと考えられる。

—阪神電車ができること—

生活支援施設の誘致や女性の社会進出支援、IC乗車券の活用などが挙げられる。また、駅のバリアフリー化による移動の円滑化もできることの一つ。

—「阪神沿線の活性化」に向けた取り組み—

駅や高架下を活用した野菜の栽培やスーパー誘致、デイサービス施設の開設などで、より地域に密着した取り組みを行っている。また、ICタグを活用させた登下校見守りサービスを充実させることで、女性の社会進出の支援につなげたい。



藤原社長と談笑中の経済学部生

更には『“たいせつ”がギュッと。』をキャッチフレーズに、沿線の良いイメージと会社の思いを発信していきたい。



©阪神電気鉄道

—最後に学生に対して—

当社には若手社員のアイデアで採用された取り組みがある。学生の皆さんには、豊かな想像や新鮮な発想を大切にしてもらいたい。

< 講演会を振り返って >

質疑応答では、講演会に参加された府大OBの方々から鋭い意見が飛び交い、さまざまな考えを共有することができました。また、参加した現代システム科学域マネジメント学類の学生は「“地域活性を企業の活性につなげていく”という経営の考え方に触れ、興味深かった!」と語ってくれました。



藤原社長と現役学生参加者

あなたの知らない世界を届けたい。
未知を知ることで、
あなたは満ちていく。
未だ知らない世界がきっとここに。
You can always take MICHl.